



校長室より



令和7年 2月26日

No.33

自分らしく生きる 豊かに生きる

卒業式前の学校は、独特の雰囲気があります。卒業生はカウントダウンしながら、緊張感とともに卒業式の練習や卒業アルバムの作成など残り僅かな日々を仲間とともに過ごしています。在校生も卒業生を送る会の準備や卒業生へのメッセージづくりなど卒業生との最後の交流を楽しみながら、忙しさと寂しさが共存した毎日を送っていますね。寒波も通り過ぎて、やわらかな日差しが注ぎ、少しずつ春の訪れを感じられるようになってきました。

2月26日(水)、紀南へ出張に向かう途中で、宮崎教育長さんが本校に立ち寄ってくださいました。ちょうど昼休みから5限目に入るところで、子どもたちが授業準備している時間帯でした。宮崎教育長さんは、いつもみはまの子どもたちが自分らしさを出している姿を評価してくださっています。特に、芸術分野では、非凡なものをもっている子どもたちが多くことから、内面を表現する作品の世界に注目してくれています。この日は、総合の講座に入った直後の様子も見ただき、軽音楽講座のリハーサルの様子やスポーツ講座のバレーボール、電子工作講座のミーティング、文化体験講座の茶道教室に向けての準備の様子、自然科学講座が海釣りに出発するところなどを見ていただきました。「みはまの子どもを見ていると元気が出る」と言ってくださっていました。



煙樹ヶ浜へ海釣りに出かけた自然科学講座の生徒は、由良町在住漁師の尾上さんを外部講師に招き、ルアー釣り、浮き釣りで果敢にチャレンジしました。この日のお天気は快晴で、波も穏やかでしたが、魚のアタリは全くありませんでした。でも尾上さんから本格的な仕掛けや餌、ルアーなども教えていただき、イメージを持ちながら竿を振り続けた生徒からは、「感激です」「楽しかった」という言葉が出ていました。みんなリベンジを誓っていましたね。次は釣れるといいですね。

